

日々の
暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長

日本で女性医師は増えていますが、出産や育児との両立がむずかしく、医師を辞める人もいます。虫垂炎で入院の1週間が自分の休息と喜ぶ女性医師もいたほどの激務です。小児科では深夜でも困惑した母子の対応があります。中国やロシアでは女性小児科医が90%を占めています。日本では院内保育所の設置は東京女子医科大学などごく少なく、女性医師の働きやすい環境整備は遅れています。医師は女性に適性のある仕事ですが、働く環境が整わずに断念するのは残念でなりません。

一方、一般の若い女性ではいまだにやせ願望が強く、過激なダイエットをした女性が妊娠出産を迎え、妊娠満期の出産でも2500g未満の低出生体重児が10%近くに増えています。先進諸国では日本だけの奇妙な現象です。胎児は低栄養状態でも適応するように生まれてきます。そして将来、高血圧や糖尿病、心筋梗塞こうそくなどになりやすいことがわかってきました。葉酸不足による先天性異常児など、妊娠してからでは間に合わないこともあります。日ごろから妊娠出産に備えた体作りを切望します。

女性医師の環境整備は急務
若い女性は妊娠出産に備え
体作りをしてください



え/平野こうじ